



2016年4月20日

アウディ ジャパン株式会社
プレス問い合わせ 03-5475-6309
<http://www.audi-press.info/>

お客様問い合わせ 0120-598-106
アウディコミュニケーション センター

プレミアムステーションワゴンの世界的ヒット作 **Audi A4 Avant** をフルモデルチェンジ

アウディ ジャパン株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：斎藤 徹）は、プレミアムミッドサイズワゴンの Audi A4 Avant をフルモデルチェンジし、4月21日（木）より全国の正規ディーラーを（120店舗、現時点）を通じて販売開始します。

Audi A4 Avant は、「テクノロジーとデザインの美の融合」というアウディのブランドテーマを体現したプレミアムステーションワゴンとして、世界中の市場で高い人気を博してきました。前身にあたる Audi 80 Avant が 1992 年に登場して以来の累計生産台数は 220 万台を超えています。今回発売する新型は、先に発表された新型 Audi A4 のセダン仕様同様、進化したモジュラープラットフォーム「MLB evo」をベースにゼロから再設計するとともに、進化した「アウディプレセンス」予防安全システムなど、最新テクノロジーを惜しみなく投入して、すべての面で商品力を大幅に向上させています。

開発にあたっては走行抵抗の削減を主要なテーマとし、体系的軽量化に取り組むとともに、エアロダイナミクスの最適化に注力して、ワゴンボディではトップクラスの Cd 0.26（欧州仕様値）を実現しました。搭載する 2.0ℓ TFSI（直噴ガソリンターボチャージャー）ユニットは、従来型に対して動力性能を高めつつ、Start/Stop システムやエネルギー回生機構を標準装備するなどして、燃料消費を大幅に削減しています。とくに、新しい燃焼方式採用の 2.0TFSI と初の 7 速 S トロニックを搭載した FWD モデルは、従来型に対して 33 パーセントの燃費改善を達成しています。

安全対策の面でも、アウディ独自の先進システムである「アウディプレセンス」の機能をさらに拡充することで、ミッドサイズカーの水準を超えた予防安全／乗員保護を実現しています。全モデルに標準化された「アダプティブクルーズコントロール」に「アクティブレーンアシスト」を加えた新機能「トラフィックジャムアシスト」は、アクセル、ブレーキに加えて、状況に応じてステアリング操作にまでシステムが介入することで、将来のパイロットドドライブ（自動運転）への道を切り拓いています。

ステーションワゴンにとって重要なポイントであるリヤのラゲージルームも、従来型に対し、より広く使いやすくなっています。居住性が大きく改善された室内には、ナビゲーション機能を内蔵した最新のインフォテイメントシステムが搭載されており、アウディ独自の MMI コントロールユニットにより、車載された数多くの先進システムを一元的に操作することができます。インターネットへのワイヤレス接続も可能にした Audi connect に加えて、複数社のスマートフォンとの接続ができる Audi スマートフォンインターフェイスにより、最高水準のコネクティビリティも確保されています。

今回発売する新型 Audi A4 Avant 各モデルと価格は以下の通りです。

モデル	エンジン	トランスミッション	駆動方式	ステアリング	車両本体価格 (税込)
A4 Avant 2.0 TFSI	2.0ℓ 直列 4 気筒 DOHC ターボチャージャー	7 速 S トロニック	FWD (前輪駆動)	右	5,470,000 円
A4 Avant 2.0 TFSI Sport	2.0ℓ 直列 4 気筒 DOHC ターボチャージャー	7 速 S トロニック	FWD (前輪駆動)	右	5,850,000 円
A4 Avant 2.0 TFSI quattro	2.0ℓ 直列 4 気筒 DOHC ターボチャージャー	7 速 S トロニック	quattro (フルタイム 4WD)	右	6,260,000 円
A4 Avant 2.0 TFSI quattro Sport	2.0ℓ 直列 4 気筒 DOHC ターボチャージャー	7 速 S トロニック	quattro (フルタイム 4WD)	右	6,530,000 円

■新型 Audi A4 Avant の概要

Cd=0.26*：卓越したエアロダイナミクス

新型 Audi A4 シリーズは、エアロダイナミクスの面で新たなベンチマークを構築しましたが、この Avant モデルも 0.26 (欧州仕様値) という、ステーションワゴンとしては最高レベルの Cd 値を達成しています。エンジンルームの下側などをフラットなカバーで覆ったアンダーボディ (欧州仕様) に加え、スポイラー機能を持たせたルーフ後端の処理などにより、後輪リフトも最少に抑えることに成功しています。

エレガンスと先進イメージを融合したエクステリア

テクノロジーイメージを意識させつつも、優美なスポーティさが印象的な新型 Audi A4 Avant のスタイリングは、アウディの新しい魅力を湛えています。オプションでマトリクス LED 仕様も用意されたヘッドライトは、ステップ状のグラフィックが印象的で、ファイバーオプティクスにより映し出されるシャープなエッジがそれぞれ補助ライトとターニングナルとしての機能を果たします。

より広く快適になったインテリア

インテリアは、従来型に比べて、すべての面でディメンションが大きくなりました。スペース面での余裕は室内のどこに座っても実感できますが、水平基調で端正にまとめられたインテリアデザインによって、さらに広々感が強調されています。シートも全面的に新しくなっており、構造材に高強度スチールやマグネシウムを使うなどして、従来型と比べると最大 9kg も重量を削減しています。

使いやすさを増したラゲージルーム

ラゲージルームもより広く、使いやすくなりました。荷室容量は 5 人乗りの状態で 505ℓ、後席のバックレストを畳むと最大 1,510ℓ で、従来型比それぞれ 15ℓ、80ℓ 大きくなっています。後席バックレストは便利な 3 分割タイプで、きれいな立方形をしたラゲージルームは使い勝手に優れます。全モデルに電動ラゲージルームカバーのほか、パーティションネット、ルーフレールが標準装備されています。

複合材料による軽量ボディ

外寸が若干大きくなっているにも関わらず、新型 Audi A4 は、従来型と比べて、最大 120kg も重量を減らしています* (欧州仕様での比較)。ボディそのものも、構造面での軽量化、及び強度に優れた熱間成型鋼板を多用することなどにより、従来型より 15kg 重量を削減しました。

ミッドサイズクラスではもっとも充実した予防安全システム

新型 Audi A4 は、アシスタンスシステムの分野でも、ベンチマークといえる存在です。「アウディプレセンスベーシック」「アウディプレセンスシティ」「アウディアクティブレーンアシスト」「リヤビューカメラ」「アダプティブクルーズコントロール」「アウディパーキングシステム」などのシステムを全モデルに標準採用したほか、さらにオプションで「アウディサイドアシスト」「アウディプレセンスリヤ」「サイドエアバッグ (リヤ)」「パークアシスト」「サラウンドビューカメラ」の各システムを用意しました (標準装備のエアバッグは前席前面、前席サイド及び前後席をカバーするカーテンエアバッグの合計 6 つ)

そのうち「アウディプレセンスシティ」は、レーダーとカメラにより前方の交通状況を監視して、クルマや歩行者の存在を感知し、緊急時には自動ブレーキを発動するなどして追突事故の危険を減らすシステムです。追突が避けがたいか、走行状況が著しく不安定になった場合には「アウディプレセンスベーシック」により、前席シートベルトのテンションを上げるなどして衝撃に備えます。同じく標準装備の「アウディアクティブレーンアシスト」は、ドライバーの車線維持操作をサポートするシステムで、ウインカーを使用しない状況でクルマが車線を逸脱しそうになると、警告を発すると同時に、ステアリングに介入してクルマを元の車線に戻します。また、同じく全モデル標準装備の「アダプティブクルーズコントロール」と「アクティブレーンアシスト」により、時速 65km/h 以下の渋滞時にアクセルやブレーキだけでなくステアリング操作にも介入してドライバーの負担を軽減する「トラフィックジャムアシスト」の機能が新たに導入されました。

効率と性能を高度にバランスした 2 タイプの 2.0 TFSI

2 つの仕様の 2.0 TFSI エンジンが用意されており、そのうち、quattro フルタイム 4 輪駆動システムと組み合わせられるハイパワー仕様は 185kW (252PS)、370Nm を発揮。これは、従来型と比べると 30kW (41ps)、20Nm の向上で、その一方で、燃費効率も 15.5km/ℓ と 14 パーセントの改善を果たしています。もうひとつの 140kW (190PS)、320Nm を発揮する 2.0 TFSI は、アウディの最新世代の「ライトサイジングエンジン」で、これを搭載した FWD 仕様の新型 Audi A4 は JC08 モードで 18.4km/ℓ と、2.0ℓ クラスのガソリンエンジンとしてはトップレベルの低燃費を実現（従来型と比較すると 33 パーセント改善）。バルブタイミングの巧みな制御により、低中負荷領域で吸気工程を短縮しつつ、圧縮比を 11.8 : 1 と、過給器付ガソリンエンジンとしては極めて高く設定した新しい燃焼方式により、かつてない燃費とパワーの両立に成功しています。燃料消費削減のために、全モデルに Start/Stop システムとブレーキエネルギー回生システムを搭載しました。トランスミッションは全モデル 7 速 S トロニックを搭載していますが、Audi A4 Avant の FWD モデルに S トロニックが採用されるのは、今回が初めてです。

軽量設計の全輪 5 リンク式サスペンションシステム

サスペンションシステムは全面的に再設計されており、前後輪ともに 5 リンクのシステムを採用することで、ハンドリングと乗り心地のバランスをさらに高いレベルに押し上げています。また、鍛造アルミなどの軽量素材を大胆に採用するなどして、大幅な軽量化も実現しました。

最新世代の MMI とアウディバーチャルコックピット

アウディを代表する先進テクノロジーである MMI は、今回操作手順が全面的に新しくなりました。固定したヒエラルキーを設けない操作の仕組みは、最新のスマートフォンにも通じるところがあります。その MMI と連動するシステムとして、12.3 インチの高輝度液晶モニターを用いたフルデジタルの多機能ディスプレイシステムである「アウディバーチャルコックピット」をオプション設定しています。

最新のインフォテイメントシステムと最高のコネクティビティ

ナビゲーション機能と 8.3 インチモニターを備えた最新鋭のインフォテイメントシステムが全モデルに標準搭載されています。操作は、ほかの車載システムも含めて、MMI コントロールユニットにより一元的に行う仕組みで、今回新たに導入された Audi スマートフォンインターフェイスにより、各社スマートフォンとの接続が可能となりました。さらに、Audi connect の付属機能である Wi-Fi ホットスポットにより、最大 8 台までのモバイル端末をインターネットに同時接続することができます。

* 欧州仕様車測定値

付属資料：Audi Avant について

Avant（アバント）は、アウディブランドにおいて、ステーションワゴンタイプのモデルを表す呼称です。かつて「美しいワゴンはアバントと呼ばれる」というコピーが宣伝広告で使われていたように、歴代のアバントは、アウディらしいデザインの美とスポーティネス、さらに、ヨーロピアンエステートならではのクラス感を兼ね備えたスタイリッシュな多目的プレミアムカーとして、人々の認知を得てきました。

そんなアウディアバントの歴史は、今から 39 年前の 1977 年に始まります。当時の Audi 100（1976 年に発表された 2 世代目）に、ユニークなファーストバックスタイルの 5 ドアモデルが追加され、それに Avant の名称が与えられたのです。

Audi 100 は、1982 年にフルモデルチェンジして、当時としては驚異的な Cd 0.30 を達成した 3 世代目モデルに切り替わりましたが、この時、同時に刷新された 100 Avant は、エアロダイナミクスとデザインのエレガンスを融合した斬新なスタイリングで人々を魅了しました。5 ドアハッチバックのイメージが強かった 100 Avant と比較すると、伝統的ステーションワゴンにより近づいていたものの、大きく傾斜したリヤウインドーなど、実用一辺倒のエステートとは明らかに一線を画していました。またこの世代の Audi 100 Avant から、quattro フルタイム 4WD システムとの組み合わせが提供されるようになり、デザインだけでなくテクノロジーの面でも「先進的なプレミアムワゴン」としてのイメージが構築されることになりました。

1977 年の初登場から最初の 15 年間は、Avant の名称で呼ばれるアウディは Audi 100 の 1 タイプだけでした。Audi 80 Avant が発売されたのは 1992 年からです。前年にモデルチェンジされて 4 世代目に切り替わったミッドサイズカーの Audi 80 に、シリーズ初のステーションワゴン仕様が追加され、それにも Avant の名称が与えられたのです。Audi A4 Avant の元祖にあたるこのモデルはスポーティでプレミアム感のあるキャラクターが強調されていました。

この Avant をベースに、歴史に残る特別なモデルも開発されています。それは、1993 年に発表された Audi RS2 Avant で、315PS の 2.2ℓ 直列 5 気筒ターボエンジンと quattro フルタイム 4WD システムを搭載して、0-100km/h 加速 5.4 秒、最高速 262km/h という、スーパースポーツカー並みの運動性能を実現していました。これは「RS」の呼称が付けられた最初のアウディモデルであり、高性能な RS モデルを Avant ベースで開発するという伝統は、今日もなお続いています。

Audi 80 は 1994 年にフルモデルチェンジされ、名称も Audi A4 に改められました、その初代 Audi A4 シリーズにも、1 年後の 1995 年に Avant が登場。以来 Audi A4 は、今日までに 4 度のモデルチェンジを経っていますが、すべての世代で Avant がラインナップされています。

先に Avant を導入した Audi 100 シリーズも、4 世代目の時代の 1994 年に Audi A6 に名称を変更。以来今日までに 3 つの世代を重ねていますが、Avant は人気のバリエーションとしてすべての世代でラインナップされています。そこで特筆すべきは、1999 年に 2 世代目 Audi A6 Avant をベースに、走破性能を高めた allroad quattro という派生モデルを開発して市場導入したことでしょう。Avant に SUV 的なキャラクターを加味したこのモデルも、市場での好評を受けて、2 世代目となった 2006 年以降は Audi A6 allroad quattro と名称を変えつつ、生産が継続されています（2012 年に 2 度目のモデルチェンジを経て現在販売されている Audi A6 allroad quattro は 3 世代目）。2009 年には、4 世代目 Audi A4 Avant をベースにした Audi A4 allroad quattro も発売されました。

最初の 100 Avant の登場から 39 年、ミッドサイズの 80 Avant の発売から 24 年。その間、自動車のテクノロジーは大きく進化しましたが、「美しく、スポーティで、先進的かつ上質なプレミアムステーションワゴン」としてのアウディアバントのポジショニングは、基本的に変っていません。それは、それがアウディアバントの理念であると同時に、Volsprung durch Technik（技術による先進）をモットーに掲げ、「デザインの美」を追求してきたアウディそのものの理念と深く重なっているからです。